

第2学年 英語科学習指導案

日 時 平成27年10月14日（水）5校時
 学 級 2年A組（男子14名・女子10名 計24名）
 会 場 2年A組教室
 授業者 遠 藤 芳

1 単元名 PROGRAM 9 「A Priest in a Mask」

2 単元について

(1) 教材観

PROGRAM 9では、2つのものや人を比べて「〇〇よりも～」という言い方の比較級（～形容詞+er than）3つ以上のものや人を比べて「もっとも～」という言い方の最上級（the 形容詞+est）、2つのものや人を比べて「〇〇と同じくらい～」という同等比較（as 形容詞 as）の言い方を学ぶ。これらの用法を理解し、正しく用いて身近な事について事実や自分の考えを表現できるようにする。テキストの、Basic Dialog で意味を推測し listening・Speaking・Let's Try・ドリルを使って話したり、書いたりして定着を図る。一度パンプラクティスで習得した用法をまとめて運用し、自分の考えを相手に伝えたり、聞いて相手の意図を理解するための活動を行い習熟を図る。

(2) 生徒観

本学級の生徒は課題にまじめに取り組む姿勢が身につけている。個人差はあるものの、新出の基本文構造の理解は早く、肯定文から疑問文・否定文への応用も比較的スムーズに活用することができる。

平成27年2月実施 諸調査結果より

	1年確認調査・県比	CRT 全国比
聞く	102.6	101
話す		108
読む	101.3	105
書く	99.0	87

上記の結果のように4技能における基本的な力はついてきている。基本文の構造を正しく身につけ、自らの体験や考えなどと結び付けて話す、言語活動の充実によってさらに主体的に学ばせていきたい。あわせて、適切な表現を用いて話すことを書く力に繋げたい。

(3) 指導観

パンプラクティスやドリルで覚えた新出の文型を意味あるものとして定着させるには、自分の身近な事柄を表現し、その有用性を実感することが大切である。生徒同士が基本文型を使って話す機会をなるべく多く設け、また文法項目がコミュニケーションに必要な不可欠となるような条件で授業を展開する。本授業ではクイズを自作し、出題させる形式をとることで、自分の考えを相手に伝え、相手の意図する事を理解して答える活動を取り入れる。

(4) 研究主題との関わり

研究主題	主体的に学習する生徒の育成 ～言語活動の充実を図る教科指導のあり方～
英語科で求める「主体的に学習する姿」	① 基本文の構造を正しく理解している。 (言語や文化の知識・理解) ② 適切な英語表現で自分の考えを相手に書いたり、話したりして伝えることができる。 (外国語表現の能力) ③ 既習事項を用いて表現された英文を聞き取って理解している。 (外国語理解の能力) ④ 既習事項を活用し、ペアやグループ学習で互いに協力し合い学習しようとしている。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
本時の言語活動	上記の文法事項を用いて、自分の意図するものを説明する英文を作り、クイズとする。解答者は聞いて理解し、出題者の意図するものを推測して解答する。

3 単元の指導計画

(1) 単元の見積

- ①自分が伝えたい事を比較級・最上級・同等比較の用法を用いて適切に表現することができる。
- ②比較級・最上級・同等比較の用法を用いて話される意図を適切に聞き取り、答えることができる。
- ③比較級・最上級・同等比較を含む、まとまりのある物語文の適切な音読と内容理解ができる。

(2) 単元の指導計画及び評価計画（6時間扱い）

時数	PROGRAM 9	コミュニケーションの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	Section 1 ・基本文活用		比較級〈～形容詞＋er than〉を用いて身の回りの事を表現できる。	比較級〈～形容詞＋er than〉を用いた文を聞いて理解できる。	比較級の用法について理解している。
2	Section 2 ・基本文活用		最上級〈the 形容詞＋est〉を用いて身の回りの事を表現できる。	最上級〈the 形容詞＋est〉を用いた文を聞いて理解できる。	最上級の用法について理解している。
3	Section 3 ・基本文活用		同等比較〈as 形容詞＋as〉を用いて身の回りの事を表現できる。	同等比較〈as 形容詞＋as〉を用いた文を聞いて理解できる。	同等比較の用法について理解している。
4 本時	PROGRAM9 基本文のまとめ運用		既習事項から適切な表現を用いて、書いたり、話したりして伝えることができる。	既習事項で話された英語を聞いて理解し、解答する。	
5	Section1～3 語句の確認 内容理解	メキシコの青年セルジオの実話を興味を持って読み進める。		単元の基本文や既習事項で構成されたまとまりのある文章を読んで理解する。	
6	Section1～3 音読	班内で教え合いながらまとまりのある文を音読する。	まとまりのある文章をグループで場面に応じた表現で音読する。	内容を理解し、音読表現に活かす。	

4 本時の指導

(1) 本時の見積

- ①自分が伝えたい事を比較級・最上級・同等比較の用法で表現することができる。【外国語表現の能力】
- ②相手が話す英語を聞いて意図を適切に聞き取り、答えることができる。

【言語や文化についての知識・理解】

(2) 本時の評価規準

評価の観点	A	B	支援の手立て
外国語表現の能力	比較級・最上級・同等比較の適切な表現や語句を用いて、聞き手を意識した文を書いたり、話したりして伝えることができる。	比較級・最上級・同等比較の適切な表現を用いて、書いたり、話したりして伝えることができる。	教え合いで作文を完成させるため、グループ学習の形態を取る。
言語や文化についての知識・理解	比較級・最上級・同等比較を用いて話される内容を聞き取り、適切に解答する事ができる。	比較級・最上級・同等比較を用いて話される内容を理解して、解答する事ができる。	グループで仲間のヒントを参考にしながら話される内容を推測させる。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	留意事項 (・) 評価 (☆) 支援 (○)
導入 8分	1 あいさつ Warm Up 2 学習課題確認	・Describe でペアの相手に説明しよう。	
比較級・最上級・同等比較の文を使ったクイズで対戦しよう。			
展開 34分	3 モデルの提示 既習事項の確認 4 個人で問題作成 5 班で問題確認 6 班毎の対抗戦	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の作ったクイズを聞いて考え解答する。 ・既習事項から課題の表現に適切な文型を確認する。 ・文構造も確認する。 ・個人で課題に対して適切な表現を用いたクイズを作文する。 ・班内で正しい英文になっているかどうか、確認しあう。 ・聞き手を意識した発表をする。 ・出題者の意図を聞き取り、答えをボードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が発想しやすいように配慮したクイズにする。 【言語活動】：書く ☆適切な表現で作文ができているか。 【表現】 ○机間指導による支援 クイズを各班2問ずつ選出させる 【言語活動】：聞く ☆聞いて理解し、解答しているか。 【理解：活動観察】 ・コミュニケーションボード使用
終末 8分	7 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して適切な文を個人で英作文する。 ・まとめ/自己評価カード 記入 	Work Sheet を回収する。

(4) 板書計画

Wednesday, October 14th

学習課題

比較級・最上級・同等比較の文を使ったクイズで対戦しよう。

クイズの例文と文法確認

比較級

最上級

同等比較

クイズの班ごと得点表

(教師が記入)

学習のまとめ

生徒の書いた作文を板書する

学習課題

比較級・最上級・同等比較の文を使ったクイズで対戦しよう。

学習のまとめ

が答えになる作文をしよう。

☆習った文法を使って、身の回りのことについて、表現することができましたね！

自己評価

- | | | | | |
|------------------------------|---|---|---|---|
| 1. クイズの英作文を書くことができた。 | A | B | C | D |
| 2. 班の仲間と協力してクイズを完成させることができた。 | A | B | C | D |
| 3. 他の班の問題を聞いて理解することができた。 | A | B | C | D |
| 4. まとめの英作文を書くことができた。 | A | B | C | D |